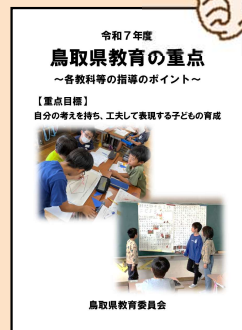


「自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成」を目指して

西部教育局
お役立ち情報
令和7年6月号

鳥取県の現状と重点目標作成の意図

急激に変化する時代の中で、学校教育には、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。



しかし、近年の全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査結果を見ると、「自分の考えを発表する機会では、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した」ことに対する本県の児童生徒の肯定的回答の割合は低下傾向にあります。

「自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成」に向けて取り組むことは、「思考力、判断力、表現力等」の育成や「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、ひいては、鳥取県教育振興基本計画の基本理念「自立して心豊かに 幸せな未来を創造する ふるさとととりの人づくり」にもつながるものと考えます。



Googleアカウント
(@g.torikyo.ed.jp)で
ログインしてご覧ください。

令和6年度 各教科等における授業の実施の状況と今後の取組に向けて

各教科等における授業の実施の状況について、令和6年度学校教育実施状況調査の結果及び学校訪問等を通して見えてきたことをもとに、令和6年度の各教科等の指導のポイントに照らして分析し、今後の取組に向けて必要と考えられることなどを、教科等ごとにまとめてあります。

体育、保健体育

指導上、努力した事項	運動の特性や楽しみ方を明確にし、楽しさに迫る学習展開を意識した授業づくり (運動に関する領域)	健康・安全に関する課題を発見し、解決するための授業づくり (保健に関する領域)
小学校	77.8%	49.6%
中学校	87.5%	53.6%

- ・「令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体育、保健体育の授業は楽しいと回答している児童生徒は増加しており、授業改善の意識が子どもたちの意欲の向上にもつながっていると考えられるため、引き続き楽しさに迫る学習展開を意識した授業づくりを進めていく必要がある。
- ・特に保健に関する領域において、自ら課題を見つけ、思考し、解決していく授業づくりを行っていく必要がある。

※表の数値は、令和6年度学校教育実施状況調査の結果を示しています。

令和6年度の実施状況をふまえ、指導のポイントを追加・修正した教科もありますので、今年度の内容をぜひ御確認下さい。



内容

「自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成」に向けた各教科等の指導のポイント 【(例) 体育、保健体育】



☆具体的な手立てを2つに絞って掲載しています。

「体育、保健体育」

①運動の特性や楽しみ方を明確にし、楽しさに迫る学習展開を意識した授業づくり (運動に関する領域)

- 児童生徒がいろいろな運動を通して、その運動の特性や楽しみ方(何を学ぶのか)を理解し、楽しさに迫るための課題追究を主体的に行う学習展開(どのように学ぶのか)を意識することで、指導の改善を図る。
- 単元を通して「する・みる・支える・知る」の多様な関わりで運動に親しむことができるように、指導の改善を図る。

②健康・安全に関する課題を発見し、解決するための授業づくり (保健に関する領域)

- 単元や本時の目標を踏まえた「課題発見」「課題解決」「表現」などの活動を適切に取り入れることができるよう指導の改善を図る。
- 健康課題が運動や日常生活と関連性があることが理解できるよう、運動領域(体育分野)や他教科等と関連を図った指導を行う。



☆掲載してあるQRコードから、「鳥取県学校教育のめざすもの(各教科等)」や過去の教育課程研究集会の動画視聴サイトをみるができます。